



伍桃だより

新 潟 医 療 福 祉 大 学 同 窓 会



特 集

新学長が同窓会に期待すること ————— P1

新潟医療福祉大学 学長 山本 正治 / 同窓会長 齊藤 公二

同窓会活動報告 ————— P3
 同窓生は今 ————— P5
 大学近況 ————— P7
 研究室Now! ————— P10

書籍紹介 ————— P10
 大学TOPICS ————— P11
 学友会活動紹介 ————— P13
 大学院お知らせ ————— P14

P15 第1回ホームカミングデー開催案内

独特の語り口で人気の戦場カメラマン
渡部 陽一氏 講演



新学長挨拶

Not 4 years, but 40 years!

4年でなく、40年！

このたび学長に就任しました山本正治です。私は昨年3月新潟大学医学部を定年退職し新潟医療福祉大学に赴任しました。専門は衛生学・公衆衛生学ですが、前任の大学では地域保健活動に関する教育と研究を行うと同時に、同窓会活動の振興にも長年携わってきました。そこで本学においても、同窓会発展のために微力ながら献身したいと思っています。どうか宜しくお願いします。

本学は平成13年に開設されましたので、今年は創立10年目にあたります。現在4学部9学科となり、学生数は大学院を含め2,500名以上に、卒業生は2,300名に達しました。卒業生の皆様は、それぞれがおかれた地域社会の中で、日々仕事に励んでおられることと思います。昨年11月、新潟市内で開催された同窓会に出席させていただきましたが、会場で皆様方の仕事に対する情熱と大学に対する熱い思いを感じ取ることができました。そして私は心の中で、卒業生のさらなる活躍を祈りました。本学の社会的評価は、皆様の肩に懸かっていると思ったからです。

ところで私がアメリカで学生だった時に学んだ言葉として“Not 4 years, but 40 years! (4年でなく、40年!)”があります。英語の語呂合わせにすぎませんが、その意味するところは、“大学で学んだ4年よりも、卒業後現役として働く40年がもっと大事である”ことです。生涯学習の重要性を説いています。皆様は学生時代に学んだ建学の精神「QOLサポーター」を思い出し、これからも地域社会の中で、QOLサポーター役に徹していただきたいと期待しています。

一方大学の立場からこの言葉の意味するところを考えると、“大学教育は4年に止まらず、卒業後40年も続く”ということになります。英語ではエンロールメント・マネジメントと言いますが、日本語では“めんどうみのよい大学”を意味します。

“めんどうみのよい大学”を代表する一人として、卒業後の皆様に対して今後ともずっとお役に立てるよう努力する所存です。専門職として必要な最新情報の交換や仕事上の悩みの解決の場を備えていただくのが同窓会組織であると思います。同窓会のさらなる発展を祈念すると同時に、大学として皆様のお役に立つことをここにお約束します。

新潟医療福祉大学

学長 山本 正治

【専門】公衆衛生学、予防医学【学位】医学博士【経歴】ボストン大学医学部リサーチフェロー、新潟大学医学部教授、新潟大学大学院医歯学総合研究科教授、新潟大学医学部長、新潟大学大学院医歯学総合研究科長、新潟大学医歯学系長、新潟県環境審議会会長、新潟県医療審議会会長、日本がん疫学研究学会総会長、日露医学医療交流財団国際シンポジウム機構長、日本衛生学会総会長 など



10年先、20年先も、
優れたQOLサポーターで
あってほしい。



「優れたQOLサポーターの育成」を建学の精神にもつ本学で学んだ卒業生に、学長が望むこと、また、卒業生が目指すべき将来の姿について、齊藤同窓会長が山本学長にお話をうかがいます。

新潟医療福祉大学の発展のために、 変えるべきこと、変えてはいけないこと。

齊藤:山本学長は、大学創立10年という節目である今年に学長に就任されたわけですが、本学の今後の発展を見据えたときに、本学の基本理念がどう生かされていくかということについてのお考えをお聞かせください。

山本学長:社会情勢は日々変化しています。特に現在は世界規模の経済不況下にあり、先行きが見通せない状況ですね。そういうなかで本学が発展していくためには、私たちの意識を変えることが求められています。自身がどういう状況にあるのかを客観的に把握し、これからの状況の変化を予測して意識を変革していくことが不可欠であると思います。

しかし、同時に変えてはいけないことを守り続けるということも非常に重要であると考えます。それは本学の建学の精神である「優れたQOLサポーターの育成」であり、それを実現するための3つの基本理念である、「QOLを支える人材



野が広がり、とてもためになります。行きやすい環境をつくってくださる大学には大変感謝しています。

山本学長: 大学を卒業してからも、勉強を続けることが求められていることを実感されていると思います。大学ではこれから10年間の将来ビジョンを策定中で、そのなかの実践行動目標として、「めんどうみのよい大学」を掲げ、在校生はもちろんのこと、卒業生の面倒もみていくためのシステムをつくりたいと考えています。

大学に在学する4年間で学問は終了するのではなく、学問は40年間続く。まさに“Not 4 years, but 40 years!”。本学が生涯教育の場となることを実現させていくつもりです。

大学の発展に寄与するために、 同窓生として求められることは。

齊藤: 最後に、山本学長が私たち同窓生に何を求めていらっしゃるかをお聞かせください。

育成をする大学」、「地域社会のニーズに応える大学」、「国際社会に貢献する大学」なのです。

齊藤: 私は本学の1期生で、優れたQOLサポーターを目指して学び、社会に出てからも常に対処者のQOLを考えて仕事をしていますが、保健・医療・福祉の分野を取り巻く環境変化のなかで、これからの時代において求められるQOLサポーター像とはどのようなものとお考えでしょうか？

山本学長: 日本は第二次世界大戦終結から現在までの間に、平均寿命の延長や乳児死亡率・新生児死亡率の低下が進み、世界一の健康水準を達成しました。しかし、一方では人口の高齢化が世界一になり、出生率が低下し、いわゆる少子高齢化が進んでいます。そういう状況であるからこそ、人々がいかによく生きるかを支え、生命の質を守るQOLサポーターに対する社会のニーズがさらに増してくることが予想されます。

そこで、本学の卒業生が将来にわたって優れたQOLサポーターとしてあり続けるための要件として、「論理的思考力」、「コミュニケーション・スキル」、「他人を思いやる心」、「チームワーク・チームリーダー」、「問題解決力」の5つを“最高のSTEP”として掲げました。卒業生のみなさんには、日々の業務に励みながらも常にこの5つの要件を認識し、理解を深めながらQOLサポーターとしての研鑽を積んでほしいと願っています。

「めんどうみのよい大学」を目指して、 生涯教育を実践していきたい。

齊藤: 私は現在、学校で栄養士として仕事をしていますが、時折、大学の研究室に先生をたずねて、仕事をしていて生まれた疑問についてお聞きしたり、進めている研究についてのアドバイスをいただいたりすることがあります。医療・福祉関係の仕事は法律や社会情勢と密接に関係しているので、専門の周辺分野について知ることや他学科の情報を得ることができるのは自分の仕事において大変有意義ですし、チーム医療という側面においても視

山本学長: 私たちが卒業生のみなさんに求めるのは、有形のものではなく、無形のものです。卒業生が活躍している姿を見ることが何よりもうれしいですね。「あの方は新潟医療福祉大の卒業生で、素晴らしい方ですね」と地域の方やマスコミを通して知る機会がどんどん増えてほしいと望んでいます。また、同窓生のみなさんに「愛校心」という無形のものを育んでもらえるよう、相互に考え、みなさんを支援していきたいと考えています。

本学が一貫して目指している、「優れたQOLサポーターの育成」というのは、実際に社会で働く卒業生にとっては厳しいテーマだと思います。一つ確実に言えるのは、自分自身のQOLがわからなければ人のQOL支援はできないということです。自分の、そして、家族のQOLを大切にすることが、優れたQOLサポーターになる道の第一歩であると、私は思います。その結果として、みなさんが社会でQOLサポーターとして活躍でき、本学の発展にも大きな役割を果たしてくれることを期待します。



第6回 同窓会総会のご報告

平成22年6月19日(土)に開催した第6回新潟医療福祉大学同窓会総会で承認された平成21年度実施事業・収支決算及び平成22年度事業計画・事業予算についてご報告いたします。



同窓会長 齊藤 公二

同窓会長挨拶

同窓生のみなさんこんにちは。
今年度同窓会が考えている新たな企画が2つあります。1つ目は、「ホームカミングデー」2つ目は、「先輩による就職相談(仮)」です。詳細につきましてはP16やHP、伍桃等をご覧ください。この2つの企画の共通点は、卒業生が大学を訪れることにあります。
昨年度から始めた後輩の先輩訪問。今年度からは先輩の後輩訪

問、母校訪問を始めます。
本学が創立10周年を迎えた今年度、先輩、後輩、大学を繋ぐネットワークがまた一つ出来上がりました。『関わり』から『伝わり』、そして『繋がり』です。本学の新しいスタートを大切に、これからより密に繋がっていくことを心より願います。
同窓生のみなさん、まずは10月10日お待ちしております!

平成21年度事業報告について

事業期間 平成21年4月1日～平成22年3月31日

平成21年度におきましては、本会の基盤作り・安定化および活性化に寄与する事業の推進を目標として行って参りました。主な事業は次の通りです。

1

新潟医療福祉大学同窓会総会・
首都圏支部総会合同開催、
設立5周年記念交流会同時開催

平成21年11月28日(土)チサンホテル&コンファレン
スセンター新潟において、役員を含め100名が参加。



2

新潟医療福祉大学同窓会誌・
ニュースレター定期発刊

「伍桃だより4号」 10月発刊
「伍桃6号」 3月発刊



3

基盤整備事業

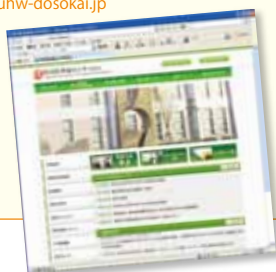
会員名簿作成・管理、会費徴収
本会の認知向上の一環として、同窓会専用封筒を大小
2種作成。



4

新潟医療福祉大学同窓会
ホームページ運営

<http://nuhw-dosokai.jp>



5

卒業年次生に向けての
国家試験合格祈願鉛筆配付

理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、
健康栄養学科、看護学科、社会福祉学科の国家試験
受験前に配付。
※健康スポーツ学科は国家試験の
受験がないため配付せず。



6

卒業式時における
優秀学生への副賞贈呈
(図書カード、現金)

図書カード(@5,000×36名)、
現金(@30,000×4団体)を贈呈。



平成22年度事業計画について

事業期間 平成22年4月1日～平成23年3月31日

1

卒業生名簿管理

2010年卒生からの連絡先収集し、名簿管理シ
ステムにて一元管理をする。

2

同窓会費

講演会より2010年卒生の補助金納入。
特別会員入会依頼。

3

コミュニケーション活動

同窓会ニュースレター「伍桃だより」10月発刊、同窓
会会誌「伍桃」3月発刊、ホームページの運営・管理

4

組織の拡大

年5回の役員会実施。6月に第6回総会実施。首
都圏支部の活動の活性化。

5

情報提供・交換

同窓会ホームページ・同窓会誌を利用して、
各種情報の発信

6

交流事業の確立

第1回ホームカミングデー実施。会員の大学訪
問、学生の職場訪問を実施。

7

支援活動

国家試験合格祈願鉛筆配布。
学生表彰副賞の贈呈。

平成21年度収支決算書

平成21年4月1日～平成22年3月31日

I. 収入の部

科 目	予 算 額	決 算 額
1. 会費収入	8,464,000	8,478,000
2. 収入利息		2,819
3. 雑収入	0	265,000
4. 前年度繰越金	1,868,837	1,868,837
収入の部合計	10,332,837	10,614,656

II. 支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額
1. 事業費	3,260,000	3,112,229
2. 会議費	250,000	84,081
3. 管理費	3,250,000	1,524,556
4. その他	1,080,000	34,651
支出の部合計	7,840,000	4,755,517

平成22年度事業予算

平成22年4月1日～平成23年3月31日

I. 収入の部

科 目	予 算 額
1. 会費収入	10,760,000
2. 収入利息	3,000
3. 雑収入	0
4. 前年度繰越金	5,859,139
収入の部合計	16,622,139

II. 支出の部

科 目	予 算 額
1. 事業費	5,000,000
2. 会議費	250,000
3. 管理費	1,710,000
4. その他	1,080,000
支出の部合計	8,040,000

※【正会員数】学部卒業生2,209名、大学院修了生73名、計2,282名(H21年度卒業生537名、修了生20名)

役員紹介



会長
齋藤 公二
健康栄養学科 2005年卒



副会長、会費、ホームページ
田中 正仁
健康栄養学科 2005年卒



副会長、会費、ホームページ
山口 正樹
健康栄養学科 2006年卒



交流活動
大滝 直子
作業療法学科 2007年卒



交流活動
本田 一輝
言語聴覚学科 2010年卒



交流活動
星野 広樹
健康栄養学科 2010年卒



同窓会誌
保苅 芙美
健康栄養学科 2005年卒



同窓会誌
猪又 一志
理学療法学科 2010年卒



首都圏支部長
原 隆祥
社会福祉学科 2005年卒

役員名	役職	卒業年	学 科
吉川 萌	会計	2005年卒	健康栄養学科
浅野(木村) 由佳	会計	2006年卒	社会福祉学科
梨本 茉莉花	監事	2006年卒	理学療法学科
貝瀬 由紀子	監事	2006年卒	言語聴覚学科
興口 伸也	ホームページ	2007年卒	理学療法学科
藤田 俊史	ホームページ	2007年卒	言語聴覚学科
金子 達也	ホームページ	2007年卒	社会福祉学科
三膳 恵子	ホームページ	2007年卒	社会福祉学科
立川 八重子	ホームページ	2008年卒	健康栄養学科
玉木 宏昌	ホームページ	2009年卒	健康スポーツ学科
渡邊 まどか	ホームページ	2010年卒	作業療法学科
松澤 翔太	交流活動	2006年卒	作業療法学科
渋谷 建昭	交流活動	2005年卒	理学療法学科
齋藤 裕香	交流活動	2005年卒	理学療法学科
齋藤 美佳	交流活動	2005年卒	作業療法学科
浜砂 佐知子	交流活動	2005年卒	作業療法学科
木村 隼也	交流活動	2005年卒	言語聴覚学科

役員名	役職	卒業年	学 科
吉田 直美	交流活動	2005年卒	社会福祉学科
南場 智子	交流活動	2005年卒	社会福祉学科
岩橋 麻希	交流活動	2006年卒	作業療法学科
高橋 博美	交流活動	2006年卒	言語聴覚学科
田澤 祐美	交流活動	2007年卒	理学療法学科
柴田 将人	交流活動	2007年卒	作業療法学科
平野 祥子	交流活動	2007年卒	言語聴覚学科
酒井 篤	交流活動	2007年卒	健康栄養学科
小泉 裕昭	交流活動	2008年卒	作業療法学科
下村 翔子	交流活動	2008年卒	言語聴覚学科
瀬藤 和哉	交流活動	2008年卒	社会福祉学科
金子 巧	交流活動	2009年卒	理学療法学科
大港 洋平	交流活動	2009年卒	言語聴覚学科
石添 拓	交流活動	2009年卒	健康栄養学科
飯田 康紀	交流活動	2010年卒	健康スポーツ学科
坂井 康恵	同窓会誌	2006年卒	理学療法学科
渡邊 典世	同窓会誌	2006年卒	健康栄養学科

役員名	役職	卒業年	学 科
竹田 翼	同窓会誌	2006年卒	社会福祉学科
金内 育子	同窓会誌	2007年卒	健康栄養学科
三富 陽輔	同窓会誌	2008年卒	理学療法学科
松下 裕	同窓会誌	2008年卒	大学院
青木 良介	同窓会誌	2009年卒	作業療法学科
中川 真紀子	同窓会誌	2009年卒	理学療法学科
宮下 修平	同窓会誌	2009年卒	言語聴覚学科
小山 里美	同窓会誌	2010年卒	看護学科
久保 裕子	同窓会誌	2010年卒	看護学科
吉岡 直也	同窓会誌	2010年卒	社会福祉学科
小林 賢司	首都圏支部	2010年卒	社会福祉学科
内藤 舞	首都圏支部	2010年卒	健康栄養学科
真岸 憲一	首都圏支部	2010年卒	健スボ
堀 友美子	首都圏支部	2010年卒	社会福祉学科
渡邊 淑恵	首都圏支部	2010年卒	看護学科
吉田 裕登	首都圏支部	2010年卒	作業療法学科

首都圏、関東地区にお住まいの方へ

首都圏支部って 何をしているの？

「同窓会の集まりに参加したいけど、新潟は遠いから…」とよく聞かれる言葉です。ご存知でしたでしょうか？実は、東京、千葉、神奈川、埼玉、群馬、茨城、栃木エリアにお住まいの会員の方々を対象として、都内のサテライトキャンパスに首都圏支部の集まりがあります。

東京で
ミーティング
するので来てね。

まだまだ新しい支部ですので、次の活動を考えています。
お気軽に参加ください。

- ① 首都圏で働く卒業生と交流
(近隣の施設や病院などの情報交換を考えています)
- ② 近隣の同窓生同士での勉強会
- ③ なんでも気軽に話しかけられるような食事会
- ④ 首都圏支部総会の開催



同窓生の近況報告「同窓生は今」

「1日1日を大切に、毎日を楽しむ」

石川勤労者医療協会 城北病院に勤務して4年目になります。当院は急性期・亜急性期・回復期・維持期・介護療養病棟があり、外部にはデイケアや訪問リハビリも併設されています。約50名のリハビリスタッフが勤務しており、同年代のスタッフも多く、活気のある職場です。

私は内科急性期病棟に勤務しており、主に急性期の呼吸器疾患・脳血管疾患の患者様に作業療法を提供させていただいています。担当する期間も短いため、いかに短期間で患者様と関わり効果的に治療するかということが難しく、1日の大切さを痛感しています。

就職して思うことは、「いろんな方がいる」ということです。自分の経験が少ない分、患者様から教えていただくことがたくさんあり、いろんな経験をすることで少しでも患者様の状態や気持ちに寄り添えるのではないかと思います。

治療・人間性に関して「引き出しの多い」作業療法士を目指し、普段から仕事・勉強に加えて趣味等にも積極的に挑戦し、楽しむことを心掛けています。



石川勤労者医療協会
城北病院勤務

新谷 文野 さん 2007年卒

医療技術学部
作業療学科



写真は同じ病院の作業療法士・
内科急性期病棟に勤務するリハスタッフです。

「日々学ぶ」

私は今年の4月から看護師として、新潟大学医学総合病院に勤務しています。看護師の同期は100名もいますが、一人ひとりにプリセプターが付く他に、新人担当専任看護師の方が、指導だけでなく、様々な相談などにも親身になって応じて下さいます。

私が勤務している神経内科病棟は、身体を思うように動かせない方もいらっしゃるので、清潔ケアや食事介助・車椅子介助などは日常的にあります。また、経管栄養の実施、吸引や人工呼吸の管理、点滴・採血などの他に、在宅療養のための指導なども行います。

始めは緊張と不安の日々でしたが、今は少しずつ出来るようになってきたことが増えて嬉しいです。まだまだわからないことだらけですが、日々学んでいます。そして、患者さんが困っていることに対して、一緒に方法を考えたり、解決や軽減できた時は、すごく嬉しいですね。よく耳にする話ではありますが、患者さんが名前を覚えてくださったり、「ありがとう」と言ってくれたときは、本当に力になります。

これからは、もう一歩進んで、患者さんのニーズに近づけるような看護をしていきたいです。日々学び、できることを増やして、頑張っていきたいです。



新潟大学医学総合病院勤務

久保 裕子 さん 2010年卒

医療技術学部
看護学科



「その人らしい生活を考える」

Q:勤務先の紹介

勤務先は新潟リハビリテーション病院です。現在、当院のリハビリスタッフはPT26人、OT22人、ST12人、CP1人で日々診療を行っています。今年度からは回復期リハビリが365日体制となり、QOL・ADLの向上のため、今まで以上に充実したリハビリの提供を行っています。

Q:仕事内容

私は回復期病棟を担当し、脳血管疾患・整形外科疾患を中心に診療を行っています。発症後1カ月程度で入院してくる対象者が多く、自宅復帰を目指して身辺動作の自立、ADL動作の自立を目標に訓練を行っています。特にトイレ動作や入浴動作などでは訓練室だけでなく、積極的に病棟で実際の場面での練習を繰り返すことが多いです。現在は365日体制で、生活にさらに密着したリハビリの提供を行っています。

Q:心に残った出来事

当院回復期病棟には急性期の病院から転院をしてくる対象者が多いのですが、急性期からの送りに同級生や先輩後輩など様々な医大出身の名前を見かけることがあります。大学を卒業してそれぞれ就職しても、このような場面で見つかることを感じる事ができます。

Q:将来の夢

作業療法士になって3年目ですが、日々の診療の中でまだまだ学ぶことがたくさんあります。これからも1人1人の生活を考えながら、その人らしい生活を取り戻すための手伝いができるように、日々向上精神を持っていきたいと思っています。



新潟リハビリテーション勤務

松下 裕 さん 2008年卒

医療技術学部
作業療学科



「心掛けるのは話を聴くこと、 正確な情報を伝えるということです。」

私は総合型地域スポーツクラブ(以下総合型クラブ)の育成支援を行う仕事をしています。総合型クラブは文科省が生涯スポーツ社会実現のために推進している施策です。2010年までに各市町村に少なくとも1つは総合型クラブを設置し、成人の週1回以上のスポーツ実施率50%以上をすることを目標としています。県内では、20市町村に36クラブが設立されました。残る10市町村に対して、直接訪問し総合型クラブの必要性や創り方等について説明をし理解を深めてもらっています。また、設立に向けて準備をしている団体や既に設立されたクラブに対しては、ヒアリングの実施や情報提供、意見交換や交流を深める機会を提供するなどしています。総合型クラブはより多くの人に身体を動かすことの魅力に気づいてもらい、心身ともに健康な人を増やしていきます。また地域コミュニティや人のつながりという、現代社会において重要な要素を強めていく可能性があるものです。総合型クラブ発展のために自分ができることをしていきたいと思っています。



財団法人新潟県体育協会勤務
クラブ育成アドバイザー

亀倉 桃野 さん 2009年卒

医療技術学部
健康スポーツ学科



ここに届くいい話

同窓会サイト <http://nuhw-dosokai.jp/>



同窓会では、会員の皆様にいち早く同窓会情報をお知らせする為、また、新潟県外にいる会員の皆様にも同窓会を身近に感じてもらえるよう、同窓会サイトを運営しています。

その中で、会員の皆様が、日々感じたり、感動したりしたことを自由に話してもらい「ここに届くいい話」をご紹介します。「ここに届くいい話」は、何気ない日々の暮らしで心に響いたことや感じた様々なことについて、綴るページです。是非アクセスしてみてください。新たな発見があるかもしれません!!

同窓会に関するご意見・お問合せ・投稿は、dosokai@nuhw.ac.jpまで、お願いいたします。

投稿していただきましたお話から抜粋して、ご紹介いたします。

「社会福祉士として、利用者の利益を最優先に考え、多くの笑顔が見られるより良い施設作りを目指したい」

Q:現在携わっているお仕事について

介護老人保健施設の支援相談員として主に入退所調整に関わっています。現在、支援相談員は3名おり、通所リハビリテーション、短期入所療養介護、長期入所の各担当がそれぞれ調整を行っています。

Q:仕事に対するご自身のモットーは？

実際に働いていると、利用者と施設との間に挟まれ思うような援助が出来ないこともたくさんあります。しかし、社会福祉士は常に利用者の側に立ったサービスを行う立場にありますので、利用者側に不利に働くようなことは絶対に避けなければなりません。だから、私は利用者の利益を最優先に考えることをモットーにしています。

Q:今後の夢や目標を教えてください。

社会福祉制度はたびたび改正があるため、その都度新たな知識を身に付け、利用者に還元できるようにしたいです。また、他職種と協同して一人でも多くの利用者さんの笑顔が見られるよう、より良い施設を目指したいと思います。



立川メディカルセンター
介護老人保健施設 悠遊苑勤務

菅野 渉さん 2005年卒

社会福祉学部
社会福祉学科



平成21年4月 同窓生サイトに掲載された記事より抜粋

「微力でも力になれば。」「ありがとう」と「笑顔」がやりがいに」

Q:現在携わっているお仕事について

理学療法士として回復期リハビリテーション病棟に所属しています。回復期病棟は急性期の治療が終了し、在宅復帰の為にリハビリテーションが必要な患者さんを対象としています。運動療法のほか、環境設定や家族指導など、より生活場を想定しながら患者さんと関わっています。さらに、カンファレンスや退院前訪問指導など、医師や看護師、ケアマネージャーなど多岐に渡る医療職種と関わりながら退院支援を行っています。

Q:仕事に対するご自身のモットーは？

一生懸命に向き合うことです。もちろん生き抜きも必要ですが、自分の内面は自然と外面に現れてくるとも思います。治療がなかなか上手にいかないことや、患者さんとの関係がうまくいかないこともあります。そんな時でも逃げずに一生懸命に向き合う姿勢を忘れずに仕事をしています。微力でも患者さんやご家族の為に力になりたいと思い、「ありがとう」の一言や患者さんの「笑顔」が仕事のやりがいに繋がっています。

Q:今後の夢や目標を教えてください。

いまは自己研鑽しながら今後のPT人生を模索しています。まだPTとして駆け出しばかりです。これからの自分に期待しています。



社会医療法人 桑名恵風会
桑名病院勤務

久保田 雅史さん 2006年卒

医療技術学部
理学療法学科



平成21年8月 同窓生サイトに掲載された記事より抜粋

「人とかかわりの楽しさを体験してもらいたい」

Q:現在携わっているお仕事について

脳性まひ児や先天疾患のお子さんに対しては摂食・嚥下の評価や訓練、コミュニケーション向上・拡大のための訓練をしています。また、発達障害のお子さんでは言語・非言語コミュニケーションスキルの向上や認知発達などを目標に訓練を行っています。他には、構音訓練や聴力検査、発達障害のお子さんのグループ訓練などがあります。時には地域の学校、施設等に出向しています。

Q:仕事に対するご自身のモットーは？

「ひとといえるのは楽しい」ということを経験してもらえ、場を提供できたいなと思っています。表現の仕方や程度は様々でも、ひとが好きなお子さんはきっと魅力的だと思うので。だから、と言っているのかわかりませんが、訓練中はいつも以上にたくさん笑っているようです。

Q:今後の夢や目標を教えてください。

子どもたちは、本当に魅力的です。その魅力を最大限引き出す手伝いをするのがこの職場でのSTとしての役割だと思っています。その役割を少しでも果たしていきたいです。



社会福祉法人
信濃医療福祉センター勤務

武藤 茜さん 2006年卒

医療技術学部
言語聴覚学科



平成21年9月 同窓生サイトに掲載された記事より抜粋

「日々前進！」

Q:現在携わっているお仕事について

栄養学科の助手として働いています。大学での主な仕事は教授、准教授、講師の先生方の授業や実験・実習の補助と、自身の研究です。授業や実験・実習では、教壇に立つ先生方の分身として学生の指導にあたれるよう予習や予備実験はかせません。また、時間ができたときには自分の目指す分野の授業を聴講し勉強しています。研究は、自分が興味をもち、かつ社会のニーズがあることをテーマに、今は公衆栄養学分野の研究に取り組んでいます。その他、県の食育イベントへの参加や小学校で食育の授業をすることもあります。プレッシャーの大きい仕事ではありますが、その分やりがいもあり、魅力的な仕事だと思います。

Q:仕事に対するご自身のモットーは？

今のモットーは「日々前進！」です。教育者、研究者として一人前になるための道のりはまだまだ遠いものですが、停滞することなく、毎日一歩ずつ前進していけるように「日々前進！」の気持ちで仕事に取り組んでいます。

Q:今後の夢や目標を教えてください。

夢は管理栄養士養成校で一人前の教育者、研究者になることです。



公立大学法人青森県立保健大学
健康科学部栄養学科勤務

佐々木 万衣子さん 2006年卒

医療技術学部
健康栄養学科



平成21年12月 同窓生サイトに掲載された記事より抜粋

頑張らない

私が地域包括支援センターに勤務し、2年が経ちました。高齢者の福祉に携わるのは初めてで、最初はなにがなんだかわからず、毎日ただ仕事をこなすだけで精一杯。なにもかもがゼロからのスタートでした。

周りが見えるようになった頃、自分はなぜここにいるのか…そう疑問に思うことが増えていました。自分のやっていること全てに自信がなくなり、「自分はここに必要なのではないか」、そう考えることが多くなり、なにもできない自分が嫌になっていました。

そんな時、定年退職を迎えた上司がある言葉をかけてくれました。「頑張らなくていいから、あなたにはこれからいろいろな事があるのだから…」

涙が溢れてきました。その涙と一緒に私の心にたまっていたものが、少しずつ消えていくような気がし

ました。直属の上司ではないけれど、いつも温かい言葉で私を気遣ってくれ、優しい笑顔で励ましてくれていたことを改めて実感し、本当に嬉しく感じました。この上司の言葉をきっかけに、私は多くの方の温かい気持ちに気付くことができました。部署が違っても私の仕事を認めてくれる方、相談にのってくれる方、いつも私を励ましてくれる先輩方、…自分が思っていたよりも多くの方に支えられていたのだと、ようやく気付くことができました。

人と人のつながりの大切さ、私を支えてくれる多くの方への感謝の気持ちを忘れずに、これからも私ができる精一杯の事をやっていきたいと思っています。

「頑張る」ではなく「一生懸命」を心がけ、多くの人と向き合っていこうと思います。

理学療法学科

理学療法学科 助教
地神 裕史

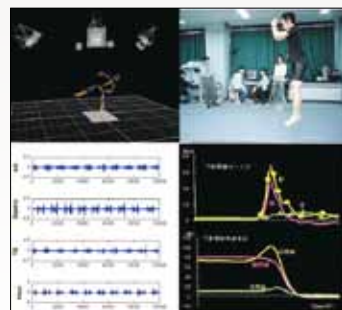


理学療法学科には本年度から新たに運動機能の基礎的な研究を専門とされている田巻弘之先生や、中枢神経疾患を専門とされている星孝先生、呼吸・循環の研究を専門とされている松本香好美先生が赴任されました。多様化する社会のニーズに理学療法士も柔軟かつ専門性を持って対応していかなければなりません。本学科では今まで以上に、高度で専門的な教育と研究活動が行えるような環境を整備しております。その一環として、在学生が教員の研究をお手伝いしながら研究方法を学ぶというUROPというシステムを立ち上げました。また、卒業生などの有

資格者を対象とした治療技術の講習会や研究会も多数開催しております。

皆さんも日々の臨床業務の中で感じた疑問を解決するために、大学に足を運んでみてはいかがでしょうか？各分野の専門家がいつでも気軽に相談に乗りますよ。もちろん大学院への入学も大歓迎です。

(学内の活動や近況は本学科のホームページもご覧ください。<http://www.nuhw-pt.jp>)



作業療法学科

作業療法学科 准教授
今西 里佳



今年は全国的に非常に暑い夏でしたが、卒業生の皆さん、お元気にお過ごしでしょうか。私は昨春に赴任しました今西里佳と申します。宜しくお願い申し上げます。さて、作業療法学科の近況をお知らせしたいと思います。本学科の助手として学科運営を支えて下さっていた1期生の田畑(旧姓齋藤)美佳先生が3月に退職され、4月より4期生の吉川安美先生が赴任されました。吉川先生はずいぶん仕事にも慣れたご様子で、最近はとても落ち着いた雰囲気を醸し出しております。そして、大山学科長ほか先生方は、みな元気に仕事に取り組んでおられます。写真は、

今年度初めて福祉用具店の協力を得て、ショールームで3年生のADL授業を行った様子です。この授業は、各種福祉用具を大学に数多く揃えることは難しいため、学外の施設を利用させていただき、学生達にOTとして福祉用具の幅広い知識を身につけてもらう目的で企画致しました。見て触って聴く体験型の授業は大変好評でした。また学科の変化としては、今春、実習室(ベッド部屋)全面にカーペットが張られ、実技授業の進め方が変わりました。機会がありましたら、少しずつ変化する学科の様子を見に帰ってきてください。そして、後輩達の指導にご協力ください。



言語聴覚学科

言語聴覚学科 准教授
吉岡 豊



言語発達支援センターの立ち上げ！

卒業生の皆さん、変わりなく元気に過ごしていますか。1期生は臨床経験も5年を超え余裕を持って臨床にあたれるようになったのではないのでしょうか。また、この3月に卒業した6期生の皆さんは毎日の臨床に精一杯といったところかもしれません。

さて、2010年度の言語聴覚学科は人事の異動もなく昨年と同じ体制で学生教育にあたっています。そのなかで新たな出来事といえば「言語発達支援センター」の立ち上げが挙げられます。言語聴覚学科の教員が地域貢献の一環とし

て、さらには学生に臨床の場を可能な限り提供したいという思いから、2010年1月にセンターを設立しました。実質的な活動は4月からでしたが、少しずつ北区や周辺市町村に存在が知られてきているようです。センター名からわかるように主な対象は小児です。特異的言語発達障害、知的障害、構音障害、吃音など様々な子どもたちが本センターを訪れています。この活動は始まったばかりでまだ十分なものとは言えませんが、少しずつ充実させていきたいと思っています。診ることに勝る教育はないと思います。これからも少しずつ成長していく後輩たちを見守って下さい。



義肢装具自立支援学科

義肢装具自立支援学科 学科長/教授

江原 義弘



AT学科では初めて4年生から1年生までそろいました。4年生は結構忙しいです。8月16日から1ヶ月間の福祉機器、車いすシーティング、靴などの施設へ臨床実習に出ていました。この便りが発刊される頃には人間的に一回り大きくなって帰って来てくれるものと期待しています。また卒業研究も本格的になり何回かの中間発表会を経て目の色が変わってきました。さっと「今までもっと勉強しておけば良かった」と思っているに違いありません。また12名の4年生が9月16日からアウトボック社などドイツの最近の義肢業界の様子を視察に行きますし、9月19日からは

別の6名の4年生がカンボジアとタイの義肢装具学校・関連施設を見学するために出かけます。これらの海外研修は授業の一環です。さらに多数の学科の学生が連携して一人の対象者(モジュール)にアプローチする総合ゼミも始まります。もちろんそれに加えて国家試験の対策もしなくてはなりません。来年3月は学科で初めての国家試験受験者を出すことになるわけで、何何でも全員合格を目指して頑張っていますよ。胸を張って皆さん方の卒業生の仲間入りができるよう、学生も教員も奮闘しています。それが下級生にも良い刺激になると思っています。



健康栄養学科学科

健康栄養学科 准教授

川中 健太郎



健康栄養学科卒業生の皆さん、こんにちは。 お元気ですか？

健康栄養学科も創立10年目を迎え、今春4月には例年になく賑やかな10期生51名を迎えました。7月中旬には梅雨明けの猛烈な日差しの中、海辺の森での恒例のディキャンプを行いました(写真)。暑さの中、疲労気味の教員を傍目に1年生の面々はどこまでも疲れ知らずに盛り上がっていました。

さて、健康栄養学科の近況をお知らせします。今春3月には48名の卒業生(6期生)を送り出すとともに、山本正治先生、張国珍先生、大島一郎先生、ならびに丸山真菜美先生(5期生)の4名の先生方が異動されました。山本先生は4月から学長に就任され、張先生は新設

の医療情報学科へ異動されました。さらに、大島先生は故郷九州の鹿児島大学農学部へ移られ、丸山先生は念願適い栄養教諭として上越看護学校で頑張っておられます。それに伴い、4月からは越中敬一先生(宮崎大学医学部から)と小川朋子先生(6期生)が新たに助手として赴任されました。

卒業生の皆さんの活躍の様子もよく耳にするようになり頼もしく感じています。先日は専門演習で2期生の近藤幸子さん(ミリアルリゾートホテルズ勤務)から「夢をかなえるために」というテーマで在学生に話をしてもらいました。これからは本学卒業生が皆さんの職場でお世話になる機会が増えてきます。よろしくご指導お願いします。



健康スポーツ学科

健康スポーツ学科 学科長/教授

丸山 敦夫



健康スポーツ学科の卒業生の皆さん、お元気ですか?昨年度は2回目の卒業生78名を送り出し、4月には6期生124名を迎えました。全学生数は470名を越え、一層エネルギー溢れる学科になってきました。

課外活動では、20歳以下女子サッカーワールドカップ2010への出場、競泳ジャパンオープン2010での8位入賞、陸上日本インカレでの6位入賞など後輩たちが輝かしい成績を残しています。また、新潟市北区の小学校での陸上・水泳指導、子供野球教室でのボランティア活動、アルビレックスRC所属選手の体力測定、地域中高齢者を対象と

した健康運動教室の開催など生涯スポーツ分野においても活躍が目立つようになってきました。学生だけでなく先生方も健康スポーツに関する研究成果をイタリア、ノルウェー、トルコで行われた国際学会で発表し注目を集めています。

本年度より、このような健康スポーツ学科の活動をブログ「いきいき放送局(<http://nuhw.blog-niigata.net/hs/>)」で紹介していますので、是非、覗いてみてください。

健康スポーツ学科は皆さんの帰る“家”です。忙しい毎日を送っているとは思いますが、いつでも遊びにきてください。



看護学科

看護学科 助手
近藤 浩子



看護学科は、完成年度を迎え、待望の第1回卒業生82名を送り出すことができました。卒業生の皆様は、県内外の志望する大学病院等への就職を決め、現在は、医療チームの一員として、ご活躍のことと存じます。本学科初の国家試験合格率は、保健師（86.1%）助産師（83.3%）、看護師（97.6%）で全国平均を上回る素晴らしい結果でした。振り返りますと、不安と緊張の連続であった臨地実習を乗り越えて4年生に進級。そして国家試験合格に向けお互いに励まし合い、努力した姿勢は、後輩が受け継ぐものと思います。8月には、卒業生6名が県

内外から本大学へ集合し、後輩との交流会も開催されました。後輩にとって、先輩の医療者として活躍している姿や励ましが一番のエネルギーになったことでしょう。今後、卒業生の皆様は、多岐にわたる専門分野への一層の学びを深めていくことと存じます。現在、学内では、各学年がそれぞれに先輩に追いつくため皆頑張っています。後期からは、いよいよ、3年生の臨地実習が始まります。現場での先輩・後輩の身近な交流の輪が広がっていくことに期待しています。



社会福祉学科

社会福祉学科 講師
渡邊 敏文



皆様、元氣でご活躍のことと存じます。今回は、7月9日（金）にJR豊栄駅前にオープンした『北区みんなの茶の間・新潟医療福祉大学豊栄駅前サテライトキャンパス「New 街の駅」』を紹介します。この「New 街の駅」は、児童、学生、障がい者、高齢者など多世代が集える居場所を開設することにより、お互いの交流を通して理解を深めるとともに、地域と大学が協働して支えあいによる福祉のまちづくりを進めるものです。あわせて、新潟医療福祉大学の駅前サテライトとして、学生や職員と地域住民が交流を深め、地域から学ぶ力、学びを社会に活かす力を育むことを目的に開設さ

れました。誰もが気軽に立ち寄れる「地域の茶の間」の機能を持たせることにより、地域コミュニティを活性化するとともに、来訪者への案内や情報発信を行い豊栄駅前通り商店街の活性化にも寄与します。

現在のところ、月曜日から金曜日の10時から16時までと、イベントのある日に開設しております。今後は、本学学生が企画する催し物やボランティアサークルの活動拠点など、市民との交流の場として発展させていきます。無料で、どなたでも利用できますので、是非、お立ち寄り下さい。



オープニングイベントにおける学長の祝辞



本学学生によるお茶席の手伝い

医療情報管理学科

医療情報管理学科 学科長/教授
東條 猛



医療経営管理学科・医療情報管理学科は「医療秘書・事務」、「医療情報」、「医療経営」の3つの分野に関する広い科目配置で、学生個々の目標に応じたスペシャリストを育成する科です。

当科に来ていただくと、まず目につくのが「バーチャルホスピタル」です。ここでは、学生に病院の受付→診療→検査（血液・尿検査・レントゲン・心電図など）→診断→治療→会計といった流れをコンピューター上で実体験できる電子カルテシステムを26台用意してあります。

オープンキャンパス（以下OC）ではこのバーチャルホスピタルに多くの参加者が集まって、楽しく体験して帰りました。作成した患者カードは次回のOCにも使えることを説明して持ち帰っていただきました。

また、OCには今年入学したばかりの1年生からも多数協力していただきました。なかでも医療情報管理学科の入口に鮮やかなピンク色のプラカードを作っていたのは、ひときわ人目を引いていました。



新 学 科 紹 介

2011年4月新設予定
医療技術学部 臨床技術学科
定員80名（予定）

日本初!!臨床工学技士と臨床検査技師の2つの国家資格を同時取得。資格の垣根を越えて幅広い業務に対応できる「臨床技術者」を育成。

本学科では、日本で唯一、卒業時に臨床工学技士と臨床検査技師の2つの国家試験受験資格を同時取得するカリキュラムを配置し、学生全員でダブルライセンスを目指します。従来のダブルライセンス取得方法とは異なり、4年間の教育の中で“同時取得”を可能としたことで、各専門職の高度な知識・技術を段階的に学ぶことができるだけでなく、それぞれの専門性の違いや連携について、また、それらを効果的に結び付ける手法を学ぶことで、ダブルライセンス取得者として独自のスキルを身につけることができます。これにより、高度化が進む医療現場において、医師のサポート役として従来の資格の垣根を越えてより幅広い業務に対応することができる「臨床技術者」の育成を目指します。



創造性技能領域の仕事における
暗黙知(職人技)と熟達化の研究

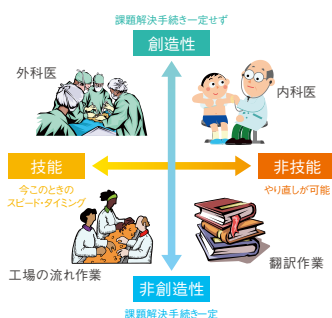
健康スポーツ学科 西原 康行



同窓会会員のみなさん、お元気でしょうか。大学開学時からしばらくは、全学教育を担当していたので、卒業生の方々に私の名前をご存知の方、あるいは授業を受けられた方々も多いことと思います。早速、私の研究内容について少しご紹介させていただきます。

皆さんの日々行なっている仕事は、図1のいずれかの領域にあてはまります。その中で私が着目しているのは、創造性技能領域というものです。この領域の仕事は、一つの解があるわけではなく、かつ、やり直しのきかない「今この時」の状況に応じた判断を強いられる仕事です。つまり、マニュアルや形式の存在しない仕事になります。例えば、この図の例のような外科医の手術もそうですし、教員やスポーツのコーチの仕事もそうです。よくプロ野球の監督がピッチャー交代を宣言しますが、あの交代の判断も「今この時」のタイミングを逃すと試合展開が変わってしまうかもしれない、しかし、その交代が正しいかどうかという明確な一つの解答があるわけではありません。こういった創造性技能領域の仕事の力量や状況判断について、エスノグラフと実践認知科学という手法を使って解明しています。さらにこういった創造性技能領域の仕事は、長年の実践による経験と勘によるところが多く、暗黙知や職人技といわれています。そして暗黙知や職人技を獲得していく過程を熟達化といいますが、この熟達化の過程についても解明しています。もしこのような研究に興味がありましたら、大学院の修士課程。博士課程でも学ぶことが出来ますのでご連絡ください。最後に、皆さんの益々のご活躍とご健勝を祈念して筆を擱きます。

図1.仕事の領域



Allard, F. & Starks, J. 1991 Motor-skill experts in sports, dance, and other domains. Toward a general theory of expertise. Cambridge University Press.

運動遂行時の脳活動に関する研究

理学療法学科 大西 秀明



最近、筋活動を引き起こすための司令塔である大脳皮質運動関連領域や、運動を感知するための体性感覚領域に着目した研究を進めています。具体的には、脳磁図、経頭蓋磁気刺激、脳酸素モニタ、筋電図を利用して人がスムーズな動作を遂行するための運動制御機構を生理学的に明らかにすることを目的としています。

人が簡単な運動を行うためには、大脳皮質の運動野の活動が必須です。また、運動を行った後は体性感覚情報をすかさず感知するために大脳皮質の体性感覚野が活動します。これらの活動を頭皮上から計測し、大脳皮質の活動部位を推定することができます。図1は右示指運動遂行時の脳磁界反応(左図)と筋電図信号(右上図)および脳活動部位(右下図)を示しています。脳磁図を利用すると、脳活動部位の推定だけでなくミリ秒単位の時間変化に伴う脳活動の変動を捉えることができます。一方、脳酸素モニタを利用すると、ミリ秒単位の脳活動の変動を捉えることができないものの、歩行などの粗大運動時の脳活動を計測・解析することができます。図2は右手指把持動作時における脳活動部位(左上図)、大脳皮質酸素化ヘモグロビン変化量(左下図)および筋活動(右下図)を示しています。これらの道具を駆使して、リハビリテーション分野における運動制御や運動学習に応用していきたいと考えています。

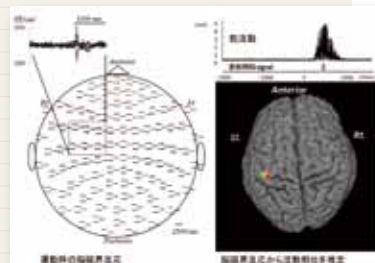


図1. 右示指運動時における脳磁界反応

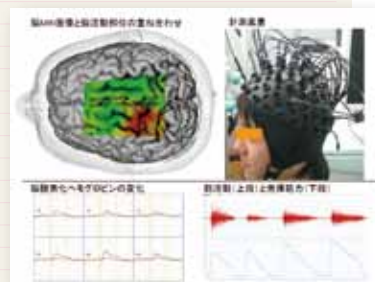


図2. 右手指把持動作遂行時における脳活動部位と脳酸素化ヘモグロビン変化量

皆さんの研鑽の為に、先生方の著書や、お薦めの本を紹介していきます。今回はこの2冊!

書籍紹介

Book 「基礎バイオメカニクス」
(医歯薬出版株式会社)

本学の江原 義弘教授(教育担当副学長 兼 医療技術学部長 兼 義肢装具自立支援学科長)、山本 澄子教授(国際医療福祉大学 大学院 福祉援助工学分野)、石井 慎一郎准教授(神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻)の3名の共著による「基礎バイオメカニクス-三次元動作分析CD-ROM付-」(医歯薬出版株式会社)が出版されました。

本書には、3次元動作分析に対応するCD-ROMが付属され、バイオメカニクスをわかりやすく解説した入門テキストとなっています。また、ポリゴン、ハワープイントを駆使した分かりやすい図解を収録し、バイオメカニクスの基礎から、日常動作の解析方法といった応用までを網羅しています。

バイオメカニクスの知識普及に向け、多くの教員がその教授法を試行錯誤しているという状況がある中、教授方法を学ぶ参考資料として、また授業で用いる教科書として、学生たちの自習書としてなど、さまざまな場面で活用できる内容となっています。

Book 園田恭一先生遺著
「社会的健康論」
(株式会社東信堂)

本学教授、東京大学名誉教授であった園田恭一先生は、2008年11月4日にご自宅で脳幹出血のため永眠されました。享年77歳のご生涯でした。

先生が亡くなられたあと「社会的健康論」という表題で執筆されていた原稿が完成直前であったことがわかりました。そこで刊行委員会が組織され、本年4月に東信堂より出版されたのが本書です。内容は本学での講義録とほぼ一致しており、健康観・健康概念の諸相とその変化、健康と疾病、ライフ・スタイルと健康・疾病、生活の質(QOL)と健康・疾病、Health for AllとPrimary Health Care、Health PromotionとHealthy Cities、障害と健康など10章からなっています。保健・医療・福祉にわたる諸分野のキーワードについて円念に概念整理をされたうえで、歴史的・社会的・国際的な視点で「社会的健康論」を展開されており、学問的・社会的に非常に意義と価値があるご遺著です。同窓生諸君にも一読を薦めまします。(社会福祉学科教授 米林喜男)



健康スポーツ学科 佐藤大輔助教が 国際学会で最優秀賞を獲得!

6月16日～19日の期間、ノルウェーの首都オスロにおいて、「国際水泳学会」が開催されました。

この学会は、4年に一度行なわれる水泳・水中運動を中心とした学術研究の世界最大の祭典で、今年で11回目を迎えた今回も、世界中の研究者から、水泳・水中運動に関するトレーニング科学、運動生理学、バイオメカニクス、医学、栄養学、心理学、リハビリテーション、など幅広い分野に関する約250もの研究発表が行われました。

新潟医療福祉大学からは、下山好充准教授（健康スポーツ学科）、地神裕史助教（理学療法学科）、佐藤大輔助教（健康スポーツ学科）、佐藤晶子さん（本学大学院修了生）の4名が参加し発表を行ってきました。

その中で、健康スポーツ学科の佐藤大輔助教は、足をぬるま湯につけると脳の「運動野」の働きが高まるという研究結果を発表し、35歳以下に贈られる、この学会の最も栄誉とされる最優秀賞（ARCHIMEDES AWARD）を獲得する快挙を成し遂げました。



大学院修了生が 理学療法学会で論文賞を受賞

5月27(火)～29日(木)に、岐阜県岐阜市・長良川国際会議場で行なわれた「第45回日本理学療法学術大会」において、本学大学院医療福祉学専攻理学療法分野の修了生で、現在、新潟リハビリテーション病院で勤務する長岡 輝之さんが優秀論文賞を受賞しました。

これは主催する日本理学療法士協会が発行している学会誌「理学療法学」に掲載された原著論文の中から、特に優秀な論文が選出されるものです。論文表彰の主旨は「理学療法を発展させ、会員の学術活動の活性化と優秀な研究者を育成する目的で、協会の学術誌に掲載された優秀な研究業績を表彰する」というものです。

わが国の理学療法界における最高賞の一つであり、大変名誉なことです。当日は他の4名の受賞者と一緒に壇上で表彰を受けました。



作業療法学科教員 「第15回WFOT^(世界作業療法士連盟)世界大会」 参加報告

5月4日(火)～7日(金)の4日間、南米のチリ サンティアゴにて「第15回WFOT(世界作業療法士連盟)世界大会」が開催されました。

これは4年に1度開催されるWFOT(世界作業療法士連盟)の世界大会で、世界各国から多くの作業療法士が参加されました。2月27日に起きたチリ地震の影響が心配されましたが、学会開催のサンティアゴ市内の被害は少なく、学会は無事に行われました。

新潟医療福祉大学からは、作業療法学科教員の能村友紀講師が参加し、研究報告を行いました。学会では世界の作業療法の動向を知ることができ、また諸外国の作業療法士との交流を深めることができました。



VICON部のOBによる 特別講義開催

3月20日(土)、VICON部OBによる特別講義が行われました。

神奈川県より渡部さん(理学療法学科2007年卒生)が来校し、VICONを使用した研究とVICON部で培った動作分析を活かした臨床応用について発表していただきました。通常の講義とは異なるこの機会に、理学療法学科の学生に加え、義肢装具自立支援学科の学生さんも多数参加するなど会場には多くの学生が集い、熱気あふれる講義となりました。

研究発表は「着地動作時における足部幅の違いが膝関節モーメントに及ぼす影響」。着地動作時に怪我を防止するためにはどんな姿勢をとるべきかを研究したもので、参加した学生たちは今後の勉強のためにメモを採りながら熱心に聞いていました。

参加した学生からは、「臨床とVICONの関連を知ることができ、さらに臨床に必要な動作の知識を知ることができて非常に為になった」という声が寄せられ、また渡部さんからは、「今後も積極的にOBを招き、OBと学生のつながりを持つことが大切」とアドバイスもいただくなど、とても充実した時間を過ごすことができました。



日・韓・タイ 「空飛ぶ車いす」プロジェクト ボランティア交流会参加

5月29日(土)、義肢装具自立支援学科 大鍋壽一教授と大鍋ゼミメンバーの1年生6人および同学科4年生と1年生の希望者の計9名が、ボランティア活動である「空飛ぶ車いす」ボランティア交流会に参加してきました。

「空飛ぶ車いす」は中古の車いすを集め点検・修理し、アジアを中心とした車いすが必要だが手に入らない人たちに届けるボランティア活動です。車いすの収集・修理・輸送など様々なボランティアの人々の手によって、これまで20年続いています。

今回参加したのは、車いすの修理・点検を行うボランティアです。会場は東京都立蔵前工業高校で、参加者は蔵前工業高校の新田 実教諭とボランティア部員10名、韓国からの留学生2名、神奈川工科大学KWR修理屋(ボランティアサークル)5名、国士舘大学 戸津ゼミから2名、また、神奈川工科大学、大森学園高校のOBなど一般ボランティアと新潟医療福祉大学のメンバー及び非常勤講師の小幡先生で、総勢30名以上が参加しました。

今回は新潟市内での修理会を行うことを予定しています。ぜひ興味を持たれた方は一緒に参加してみませんか？



JR豊栄駅前に 本学サテライトキャンパス 「NEW街の駅」がオープン!

7月3日(土)にJR豊栄駅前に北区みんなの茶の間・新潟医療福祉大学豊栄駅前サテライトキャンパス「NEW街の駅」が完成しました。

北区みんなの茶の間・新潟医療福祉大学豊栄駅前サテライトキャンパス「NEW街の駅」とは、本学が地域の児童・学生・障害者・高齢者など多世代が集える居場所として、北区や豊栄地区の方々と共に設置に向けて準備を進めていたものです。今後は本学学生が企画する催しものや、ボランティア・サークルの活動拠点、市民との交流の場として、さらなる発展を目指していきます。是非、お気軽にお立ち寄りください。

「NEW街の駅」

■場所

豊栄駅前通り商店街内
新潟市北区白新町2-1-23
(豊栄駅前通り商店街)

■営業日

月～金 10:00～16:00
※土・日・祝日は休業
(ただしイベント実施日は営業致します)



Information

第10回新潟医療福祉学会学術集会のご案内

同窓生の中にはご存知の方もいらっしゃると思いますが、新潟医療福祉大学とともに歩みを始めた学会があります。健康・医療・福祉分野との連携や共同研究の発展のために活動している「新潟医療福祉学会」がその学会です。学会が発足して以来、毎年学術集会を開催しており、記念すべき第10回の学術集会が本年10月30日(土)に開催されます。

今回のテーマは「ライフ・イノベーション」です。イノベーションとは新たな技術革新に加えて社会的意義のあるものを創造する変革のことをさします。本大会では、特別講演やシンポジウム、10周年記念講演を通じて、医療・健康・福祉関連職種が、健康長寿社会の実現に向け、社会のニーズにあったシーズを絶え間なく発掘していきながら研究し、新しい成果を社会に還元していくきっかけになることを狙いとしています。

日常の業務とは違った視点で、自身の仕事を考えるきっかけにはいかがでしょうか？



日時 平成22年10月30日(土)

大会長 大西 秀明

(新潟医療福祉大学理学療法学科長/教授)

場所 新潟医療福祉大学

参加費 無料

プログラム

9:00	受付開始
9:30	大会長挨拶
9:35	10周年記念講演「予防医学研究40年の経験を通して語る これからの保健・医療・福祉問題」 講師 山本正治 新潟医療福祉大学学長
10:20	一般演題(口述セッション)
11:50	新潟医療福祉学会総会
13:20	一般演題(ポスターセッション)
14:20	特別講演「自分にふさわしい運動をいつでもどこでも」 講師 木竜徹 新潟大学大学院 自然科学研究科 教授
15:05	シンポジウム「ライフ・イノベーションを支えるスーパー専門職」
16:15	優秀演題表彰、閉会

水泳部 (強化クラブ)

関東学生選手権結果報告

最後の関東学生選手権でした。
8月3日から3日間にわたり、「関東学生選手権水泳競技大会」が東京辰巳国際水泳場にて行なわれました。本学水泳部は、創部6年目にして、初めて男女揃っての関東一部校でのたたかいとなりました。
また、来年度から本学を含めた新潟県内の全ての大学が、日本水泳連盟学生委員会の「関東支部」から「中部支部」へ移ることが決定し、今年が最後の関東学生選手権出場となりました。チーム力を活かし、チーム一丸となって3日間闘い抜きました!

みんな本当によく闘ってくれました。インカレまであと4週間。この4週間でできることを全て行ない、インカレを迎えたいと思います。応援にかけつけて下さった保護者の皆様、OBOGの皆様ありがとうございました。

大会結果

- 白野友梨奈(石川県出身)
50m自由形 優勝
- 奈良梨央(新潟県出身)
100m背泳ぎ 3位
- 白野友梨奈(石川県出身)
100m自由形 4位
- 大友瑛史(宮城県出身)
200m自由形 4位
- 大友瑛史(宮城県出身)
200mバタフライ 5位
- 男子800mリレー 5位
(大友瑛史、沼田裕介、浅野修平、河合東人)
- 女子400mフリーリレー 5位
(奈良梨央、外山幾里、門田彩、白野友梨奈)
- 山田知沙(愛知県出身)
800m自由形 6位
- 坂上亜衣(福岡県出身)
200m個人メドレー 6位

最終順位

男子:関東一部 8位(9チーム中)
女子:関東一部 7位(9チーム中)

NUHW SPORTS CHANNEL 強化クラブ特集
新潟医療福祉大学 水泳部 通信
<http://nuhw.blog-niigata.net/swim/>
8月4日~7日記事より抜粋



白野友梨奈選手(健康スポーツ学科4年)
6月の「ジャパンオープン2010」の50m自由形で自己ベスト記録を更新し、見事8位入賞の快挙!!



男子400mリレー
(河合選手、松岡選手、大友選手、大森選手)

園芸部

こんにちは、園芸部です!私たちは毎年、花壇に花や野菜を植えて活動をしています。今年の花壇にはラベンダーやひまわりを植えて、野菜はししとうや茄子を作っています。写真は花壇の様子と、ある日の活動日です。活動日は天気によって左右されたりするので決まっていますが、時々中庭の花壇でおしゃべりしながら活動しているので、もしよかったら声を掛けてみてください。みんな和気藹々とした雰囲気で作業しています。

これからの予定ですが、秋には伍桃祭に出店するつもりです。また、毎年秋に行う部内での遠足も予定しています。今年は1年生がたくさん入部してくれて賑やかになったので、できるだけたくさん活動して部のみんなと楽しんでいきたいです。



サッカー部 女子 (強化クラブ)

【サッカー部 女子部員】日本女子代表として世界に挑戦! 小原 由梨愛がFIFA U-20 女子ワールドカップ2010ドイツ大会出場!

7月13日~8月1日に開催された「FIFA U-20 女子ワールドカップ2010(独・アウグスブルグ、他)」U-20日本女子代表に、本学サッカー部女子部員 小原 由梨愛(アルビレックス新潟レディース所属、健康スポーツ学科2年 常盤木学園高校出身)が出場し、グループステージでの3試合すべてに先発出場を果たしました。

グループステージ試合結果

第1戦	VS メキシコ 7月14日(水) 14:30キックオフ(現地時間) メキシコ 3-3 日本
第2戦	VS ナイジェリア 7月17日(土) 15:00キックオフ(現地時間) ナイジェリア 2-1 日本
第3戦	VS イングランド 7月21日(水) 15:00キックオフ(現地時間) 日本 3-1 イングランド

忙しい練習の合間をぬって、小原由梨愛選手がインタビューに答えてくれました。



Q.代表としてワールドカップに出場した感想は?

A.アジア予選とは違い、選手一人ひとりが強く、世界の壁は思った以上に高かったです。勝利には貢献できず、悔しい思いもりましたが、良い経験になりました。

Q.一番印象に残ったことは?

A.何より、失点の全てが本当に悔しいです。うれしかったことは、代表ではサイドディフェンスとして選ばれたのですが、イングランド戦では、本来のポジションのサイドハーフでプレーできたことです。

Q.今後の目標は?

A.フル代表のなでしこJAPANに選ばれて、世界の舞台でプレーしたいです。

Q.最後に先輩方へ一言

A.アルビレックスレディースの試合を見に来てください!
小原選手ありがとうございました。

軽音楽部

軽音楽部は、毎年伍桃祭でのバンド演奏を目標に日々練習を行っています。伍桃祭以外にも、新入生歓迎ライブ、クリスマスライブ、はたまた学外のライブハウスでのライブ活動を行っています。バンド演奏と言っても演奏しているジャンルはバンドごとで様々です。激しいバンドがいたかと思えば、しっとり聞かせるバンドもいます。しかし共通している事は、部員一同音楽が大好きだということです。雰囲気もアットホームでとても明るいです。軽音楽部はそんな音楽が大好きな皆様の入部を心からお待ちしております(経験の有無は問いません!)。1棟107,108教室で毎週水、金曜日に活動しています。是非是非一度見学に来てみてください。Rock You!!



伍桃祭にお越しください!!

大学祭HP

<http://gotousai2010.web.fc2.com>

日付 10月9日(土)、10日(日)

場所 新潟医療福祉大学

時間 9日 10:00~18:30 10日 10:00~16:30

9日(土)

●RAGFAIRライブ

(時間:12:30~)

●ビンゴ大会

ビンゴ参加者には素敵な景品が!!

●学科対抗イベント(1年生のみ)

10日(日)

●ひなたライブ(時間:12:30~)

●学科対抗パフォーマンス大会(2年生のみ)

(時間:13:30~)

内容:各学科の代表が自分の学科を紹介します!歌にダンス何でもありです!

●地域交流イベント

目的:会場に来て下さった地域の皆さんとふれあいたい!お話がしたい!学生の顔を見てもらいたい、知ってもらいたい!という思いからこんなイベントを考えました。

□触れ合いスタンプラリー

内容:カードにスタンプを集めて受付に提出すると素敵なプレゼントがもらえます!

□写真アート

内容:学祭に参加しているみんなの写真で1つの絵をつくらう!

●出店

チョコバナナ、おでん、タピオカジュース、フランクフルトなど
フリーマーケット、おばけ屋敷

※時間は変更の可能性があります。

大学院お知らせ

大学院構成



*平成23年度より、健康栄養学分野は保健学専攻から健康科学専攻に移行します。

働きながらキャリアアップ!

時間がなかなかなくて...

- 平日の時間は18:10スタート。
土曜・集中授業もあり!
- 長期履修制度で3年間・4年間
かけて履修することも可能!

学費が...

- 学部卒業生は**入学金半額免除!**
- 充実の奨学金制度・特別研究奨学金(給付)
・修学援助奨学金(給付)
・無利子貸与奨学金(学費の全額か半額を貸与)
- 修士課程は教育訓練給付金の利用も可能
(申請者には、修了後に10万円が給付されます)

Student Voice

研究成果を臨床現場へ

私は、臨床で上肢の外傷後のリハビリテーションを中心に行っています。臨床で感じたことはリハビリテーションに関する治療の根拠が少ないことでした。そこで私は、臨床での疑問点等を解決することを目的に本大学院に進学しました。本大学院で研究成果をあげることは、新たな治療法、保健・福祉サービスを確立し、多くの国民に提供できるので、とてもやりがいを感じることができると思います。



松澤 翔太
(作業療法学科卒 2006年卒)

他分野の方々と学ぶ

大学院では、年齢・経験も様々な他分野の方々と学ぶ機会があり、その考えや姿勢に触れ自分自身の視野が広がりました。また専門分野以外の講義にも、これまでの臨床経験を顧み、今後の臨床に活かせる内容が多く、大変勉強になっています。

「何かに熱中したい」、「自分の専門家としての方向性を模索したい」と思っている方、ぜひ大学院に進学しませんか?



市野 千恵
(言語聴覚学科卒 2006年卒)

新潟医療福祉大学大学院 入試のお知らせ

	第1次募集	第2次募集	第3次募集
出願期間	平成22年 9月6日(月) } 平成22年 9月21日(火)	平成22年 12月22日(水) } 平成23年 1月7日(金)	平成23年 2月7日(月) } 平成23年 2月22日(火)
試験日	平成22年 10月2日(土)	平成23年 1月22日(土)	平成23年 3月5日(土)
合格発表	平成22年 10月8日(金)	平成23年 1月28日(金)	平成23年 3月11日(金)

お問い合わせ

新潟医療福祉大学 大学院入試事務室

〒950-3198 新潟市北区島見町1398番地

TEL: 025-257-4455 (代表) FAX: 025-257-4456 E-mail: nyuusi@nuhw.ac.jp URL: <http://www.nuhw.ac.jp/>

10月10日(日)は
NUHWに
集合しよう!!

第1回

ホームカミングデー開催

懐かしい恩師や旧友の方々と旧交をあたため、交流と絆を深める機会となりますよう、「第1回新潟医療福祉大学ホームカミングデー」を開催することといたしました。

10月9日(土)・10日と伍桃祭も開催されています。

伍桃祭の詳細はP13をご覧ください。

イベントスケジュール

※詳細はホームページをご覧ください。

10:30～

受付 第2実験実習棟大講義室(GA101)前

11:00～12:30

記念講演 第2実験実習棟大講義室(GA101)

講演者

渡部 陽一 (わたなべ よういち)
戦場カメラマン/ジャーナリスト

戦争の悲劇とそこで生活する民の生きた声を体験し、世界の人々に伝えるジャーナリスト。世界情勢の流れのその瞬間に現場で取材を続けている。独特の語り口が話題となり、数多くのテレビ番組で活躍中!

講演テーマ

**「家族の絆ー世界100ヶ国以上の
家族と過ごした時間」**

戦場や被災地を中心に100ヶ国以上の国へ取材をしてきたなかで、戦場という悲惨さや、残酷さを持つ人間の性(さが)を見つめてきました。

しかし、それと同時に家族の血の繋がりと、家族愛の深さや強さを感じてきました。状況がどんなに厳しくても、子どもを抱く両親は笑顔で溢れ、戦争の影響で病気をもち未熟児として生まれてきた子ども、母親の愛に包まれている。

写真を紹介しながら、家族の絆や家族を愛するという事について考えていきたいと思います。

13:00～14:00

交流会 第3厚生棟(IA棟)1階

軽食と飲み物をご用意して、同窓生の皆さんのお越しをお待ちしています。先生方やご友人と一緒に、懐かしい話や近況報告に花を咲かせてください。
※交流会には、渡部陽一さんは参加されません。

申込方法

Eメールにてお申込ください。同窓会ホームページに申込手順を掲載しています。

座席をご用意いたしますので、必ず事前にお申込をお願いいたします。当日は、学園祭も開催しています。



同窓会ホームページのお知らせ

皆さん、同窓会ホームページをご覧になっていますか?

母校や同窓会の最新ニュースは日々更新されています。また、

活躍している卒業生を紹介する「卒

業生は今!」や、「ここに届くいい話」

は毎月10日頃に更新をします。是非、

定期的にご覧ください。また、同窓生

の方に役員が寄稿のお願いをしており

ます。役員から依頼があった際は、

ご協力をお願いいたします。



会員情報・住所変更届のお願い

住所、勤務先・氏名の変更などは、同窓会トップページの「会員情報・住所変更届出」から手続きをお願いいたします。

また、同窓会に関するご意見・お問い合わせ・投稿は、

E-mail: dosokai@nuhw.ac.jp

同窓会サイト(会員情報・住所変更届出)について

http://nuhw-dosokai.jp/

編

集 後 記

虫の声が秋の訪れを感じさせる季節ですが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。

今年は新潟医療福祉大学の開学10年目という節目の年ということで、卒業生の皆さんは感慨深い気持ちではないでしょうか。また、卒業してからこれまで様々な変化があったかと思えます。

さて、山本学長がおっしゃっていたように4年ではなく40年ということで、同窓会は重要な位置づけにあるかと思えます。ですので、これまで以上に活発に活動し、皆さんに情報の発信や活動の場の提供を行っていききたいと思います。活動の1つとして10月10日の伍桃祭においてホームカミングデーを開催させていただきます。貴重な講演と、先生や卒業生同士の交流会も行いますので、ぜひふるってご参加いただければと思います。そして、この機会に母校の様子も併せてご覧ください。

新潟医療福祉大学同窓会支援室
新潟市北区島見町 1398 番地

E-mail : dosokai@nuhw.ac.jp

TEL : 025-257-4455(代)